

令和3年度第1回（第52回）地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

1 日時 令和3年7月20日（火）13：30～15：00

2 場所 （地独）鳥取県産業技術センター大会議室

3 内容

（1）産業技術センターから令和2年度業務実績について説明

（2）評価委員会の委員長の選出

昨年度まで評価委員会委員長であった、河田委員を引き続き委員長とすることで全委員の意見が一致し、河田委員を委員長に選出した。

（3）質疑応答

（○：委員の質問）

○昨年度は丸1年間、新型コロナの関係でいろんな制限がかかっている中で、非常によく頑張っているなという印象は受けました。非常に素晴らしい成果を出されているかなと思います。ただ、企業訪問や企業が相談に来ていただくということが、結果的に、訪問件数KPIに対して99%という辺りの数字で、ほぼ達成という評価になることもやむを得ないという見方もあると思います。そこに対して、自己評価がAとなっていますが、概ね計画どおりに進んでいるものはB評価ということでもあり、どこを見ればそういうA評価という自己評価になったのか説明いただければありがたいです。

→（産業技術センター）

- ・数字だけを見ると、大幅に下回ってはないにしてもそのような印象があるとは思いますが。ただ、KPI値というのは、目標に向かっての目安として設定してしまっていて、我々の一番の成果としての技術移転とか県内企業の事業化というのにつながっているものが計画以上であり、企業の皆さんへ貢献度を加味した結果、Aとしています。
- ・例えば、機器利用のところなどは前年比でもあまり変わらない件数ですが、県内企業の件数は1割増えています。県外企業は機器利用の制限をさせていただいた期間が多く、逆にそういう状況でありながら県内企業は広く利用していただくことで、全体で1割プラスになっています。

○令和2年度計画で、機器利用云々というところに多様なメニューを設定するとともに、対応する研究員のレベルアップにも努めるとの記載があります。例えば多様なメニューをどういうふうに設定して、例えばどのように研究員をレベルアップして技術スタ

ップを配置して支援強化が行われたかという辺りはいかがでしょうか。

→（産業技術センター）

- ・技術スタッフの職員の研修については、各研究所の各グループに技術スタッフを1名ずつ配置しておりまして、その方が機器利用の窓口になって貢献しています。
- ・レベルアップというのは、当然職員もレベルアップするのですが、依頼試験等を通じて、実は県内企業さんの技術者の方々にもレベルアップをしていただいて、自ら課題解決できるようにしようというような取組をしています。そういう県内企業の動きがセンターでの機器利用の動きが多くなった要因にもなっています。

○産業技術センターとして、コロナ禍で大変困ったこと、それから大変工夫されたこと、そういったところをあえてクローズアップするとすれば、どういったことになるかということをお聞かせいただけたらと思います。

→（産業技術センター）

- ・やはり、我々の仕事というのは企業さんと対面でやるのが一番大事な仕事になります。それがなかなかできないのが一番困ってまして、特に非常事態宣言が連休前、去年の連休前ぐらいから出て、その当時はやっぱり世の中が厳しかったので、その当時は県外からの利用はお断り、県内企業もできるだけ来なくていいものは来なくてというような制限をして、その中でやっていました。
- ・また、人材育成事業に数多く取り組んでいますが、実は何回も計画をして、何回もコロナの影響で延期にするなど計画するたびになかなかできなくて、その辺はすごく苦労しました。また、新型コロナで人を集められないし会えない。企業訪問も行きたいけど行けないというようなことがすごくありました。そこがすごく困ったところです。

○そんな中で、職員の皆さんのモチベーションが下がったりとか、そういうようなことを感じられるときはありましたか。

→（産業技術センター）

- ・モチベーションが下がっているように見えることも時々ありました。皆さん、結構、講師とか自分たちも準備をして、もう周知もしてやるぞとやっていたのに、1週間前とか3日前に延期しろとか難しいからやめろというのが何度もあって、そのたびに結構反発もありました。

○情報発信、広報活動ということで、行政機関がされる手段としてはほぼ取り組まれていると思いますが、例えば、時代に合わせてSNS媒体を活用するなどもう少し何かプラスアルファが欲しいかなと思いましたがいかがでしょう。

→（産業技術センター）

- ・いただいたご意見を参考に、広報媒体を充実させていきたいと思っています。
- ・幅広く知っていただくという意味では、マスコミにも打って行って新聞やテレビで取り上げていただけるように努力もしてまいりたいと思っています。

○KPIのことですが、訪問件数など定量的な件数ではかれるものと、企業の満足度のよりに定性に近いものがあると思います。満足度はヒアリングというか多分アンケートでもされているのかなと思うのですが、企業満足度はどのように測っておられるのか。

→（産業技術センター）

- ・来所された方に必ずアンケートを書いてもらうということで、帰られるときに満足度はどうでしたかというのをアンケートで書いてもらうようにしています。来所される方が書かれるものは、技術相談とか機器利用とか人材育成で来られますので、そういう観点で満足度がどうだったかということで書いておられます。
- ・研究については、共同研究の方は共同研究してどうでしたかというのを聞いていまして、それを書いていただいています。
- ・ほかには2年に1回、事業者の社長さんとか企業の社長さんとか来られている人とかに、大々的にセンター全体の活動についてどうですかというアンケートを取っていまして、それは大体2年に一度ぐらい、その辺の情報は入ってきます。

⇒質疑応答終了後、産業技術センター退出

- ・評価方法、評価スケジュールの確認のほか、事務局から次回再開日を案内

（以上）